

## 1 小学校高学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 「公正、公平な態度で」 内容項目 4－（2）
- 2 資料名 「正しい判断を」（出典 平成26年度人権教育実践報告会発表作文集「はばたき」第38集 埼玉県教育委員会発行）
- 3 主題設定の理由

### （1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目 4－（2）「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平に接し、正義の実現に努める。」ことをねらいとしている。

公正、公平にすることは、私心にとらわれずだれにも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、社会的な平等が図られるようにふるまうことである。よりよい社会を実現するためには正義を貫く心が不可欠であり、自他の不正や不公平を許さない姿勢をもち、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする行動力が重要である。

中学年では約束や社会のきまりを守ることなどを身に付けてきた。高学年となった今、身近な差別や偏見、そして社会的な差別や不公平さなどの問題について気づき、考えることのできる、公正で公平な態度を育てていきたい。

### （2）児童の実態について

児童は、人を差別してはいけないことやいじめをしてはいけないことを十分理解している。しかし、周りの目を気にしたり、自分にも被害が及ぶことを恐れ、見て見ぬふりをしてしまったり、いじめに同調したりする弱さが見られる。

震災当時、児童は低学年であり、あまり記憶に残っていない児童もいる。そのため東日本大震災に関するアンケートをとり事前に児童の実態を把握しておく必要がある。

本学習を通し、人権教育の視点からいじめや差別を許さない態度を養うとともに、周りに流されず、自分で何が正しいのかを考え、判断して行動することが、差別や偏見のない明るい社会につながることに気付かせたい。

### （3）資料について

本資料は、東日本大震災に関する児童の人権作文である。父親が転勤になり、福島県から埼玉県のA小学校に転校する私は、放射能がうつるといういじめが世間で起こっていると母親から聞き、「自分もいじめられるかもしれない」という不安や、「とても大きな学校なのでやっていけるだろうか」という不安でいっぱいになる。しかし、A小学校の同級生たちは、明るく元気に声をかけてくれ、感謝の気持ちでいっぱいになる。このことから、私は、これからも友達と助け合い、周りに流されることなく、いつでも正しい判断ができる人になりたいと決意する。

この資料から、「正しい判断ができる人」とはどういう人のことなのか、児童一人一人にじっくり考えさせたい。また、だれに対しても公正、公平に接し、正義の実現に努めようとする態度を養いたい。

#### 4 ねらい

身近な差別や偏見に気付き、だれに対しても公正、公平に接し、正義の実現に努めようとする態度を養う。

#### 5 人権教育上のねらい（災害時における人権への配慮）

他者の痛みや感情を共感的に受容し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度を養う。

#### 6 人権教育上の視点

- (1) いじめ等、身近な人権侵害に気付き、人権を守ることの大切さを知る。 (知識)
- (2) 差別や偏見を受ける人の立場に立って、相手の痛みや心情がわかる想像力、感受性、共感的な理解力を身に付ける。 (技能)
- (3) 差別や偏見を受ける側の痛みを知り、公平な態度や思いやりの心をもって相手の立場を考え、人として差別や偏見を許さない社会を築こうとする態度を身に付ける。 (態度)

#### 7 展開

##### (1) 事前指導

- ・人権作文を書き、生活をふり返らせる。
- ・東日本大震災に関するアンケートをとる。

##### (2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 東日本大震災に関するアンケート結果と写真から、資料への関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変な被害だ。</li> <li>・今でも家に帰れない人がいる。</li> <li>・風評被害にあった人達もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災や避難所の写真から、被害の大きさを知らせる。</li> <li>◎今もなお、辛い思いをしている人がいることに気付かせる。</li> </ul>
展 開	2 本時の資料について知る。	<p>登場人物 主人公：私 ・ A小学校の同級生たち 条件・状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、福島県から埼玉県のA小学校に転校してきた。</li> <li>・福島県の放射線被害のことを描いた漫画のことを聞いて、私は、転校する時に感じた不安を思い出した。</li> </ul>	
	3 資料「正しい判断を」の範読を聞き、話合いの方向性をつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物、条件、状況を整理し、話題をつかみやすくする。</li> <li>・主人公の気持ちになって考えながら聞くよう指示する。</li> </ul>





9 板書

正しい判断ができる人とは？

公正・公平な態度

4 班	1 班
5 班	2 班
6 班	3 班

同級生  
「いっしょに机を運ぼう。」  
(明るく元気に声をかけてくれた)

初めて学校に行ったとき

転校するとき

不安な気持ち

正しい判断を

主人公：私

A小学校の同級生

私は、福島県から埼玉県のA小学校に転校  
・福島県の放射線被害のことを描いた漫画のことを  
聞き、転校するときに感じた不安を思い出す。

写真

写真

道徳アンケート

組 番 氏名 ( )

1 あなたは、東日本大震災を覚えていますか。

- ①よく覚えている    ②覚えている    ③あまり覚えていない    ④覚えていない

2 東日本大震災について知っていることを教えて下さい。

3 それらをどのように知りましたか。

- ①新聞    ②テレビ    ③お家の人から    ④学校の先生から    ⑤その他 ( )

資料



つなみ  
津波に流された家（岩手県大船渡市）



家を失い学校の体育館にひなんした人々（宮城県名取市）

出典：社会科副読本研究所 JSL 株式会社

れずに、これからも友達と助け合って、過ごしていきたいです。

今、話題となっているこのまん画では、原発事故によって福島の人たちは、鼻血やひ労感といったような状が出るとえがいています。一方では、放射線との関連性はないという人もいるとニュースで聞きました。しかし、このまん画を読んでも、福島に対して不安に感じた人も多いと思います。私もその気持ちは確かにそうだなと思います。私も、検査をした時、内部ひばくしていないかどうか心配でたまらなかつたからです。

相手を傷つける言葉を使つてはいけなないと、担任の先生はよく話してくれます。その言葉によって、相手はどう感じるか、しっかりと自分の頭でよく考えてから話さないか、と教えていただきました。だから、このまん画を読んだ人もありえない部分だけに注目するのではなく、自分で何が正しいのかをよく考えて行動することがとても大切だと思います。

私の周りには、放射能がうつるなどといじめをする人はいません。むしろ、そんな不安をふき飛ばす

かのように、明るく元気に声をかけてくれる人ばかりでした。だから、私は、多くの人が正しい判断をし、相手のことを考えられることができると思います。

もし、このまん画を読んで福島のことを不安になった人がいたとしたら、ただ単に福島のことをこわがらないでほしいです。その人なりの立場で構わないので、福島の人たちの不安をふき飛ばすような優しい思いやりのある態度をとってほしいと思います。

私は、これからも、福島で生まれ育ったことをほこりに思いながら、今、お世話になっている家族や先生方、友達、地域の人たちを大切に、周りに流されることなく、いつでも正しい判断ができる人間になれるようにがんばりたいです。

（出典 埼玉県人権教育実践報告会  
発表作文集「はばたき」第三十八集）

## 正しい判断を 小六

福島はもう住めない、安全には暮らせない。こんなありえないことがまん画になり、話題になっています。福島の放射線ひ害のことをえがいたこのまん画は、不安を招くと批判の声も上がっています。

私は、このまん画のことを聞いて、私が転校する時に感じた不安を思い出しました。私は、父が転勤になり、福島からA小学校に転校してきました。福島は、東日本大しん災によって引き起こされた原発事故のえいきょうで、放射線量が高くなっています。そのため、私は、ホールボディカウンターによる内部ひばくの検査をしました。今まで気にもしていなかった放射線。その検査をするという自分で、自分の体の中に放射線が入っていたらどうしようと、とても心配しました。幸いなことに、私には、問題がありませんでした。

しかし、福島といたら、放射線にお染されているというイメージを多くの人々が持っている聞いたことがあります。そんな福島に住む人は、放射線に

まみれた人だと誤解されているかもしれませんが。実際、福島からひ難した人に対し、放射能がうつるといういじめが起こつていと母から聞いたことがありました。そのため、埼玉に引っこして来たら、私もいじめられるかもしれないと不安でいっぱいでした。

さらに、転入したA小学校は、児童の人数がとでも多く、前にいた学校よりもとでも大きな学校なので、この学校でやっいていけるのだろうかと不安になりました。二つの不安が重なって初めて学校に行った準備登校の時は、とてもきん張しました。

「いっしょに机を運ぼう。」  
きん張している私にA小学校の同級生たちが、明るく、元気に声をかけてくれました。私は、その一言を聞いて一気にきん張がとけました。きつと、不安でいっばいできん張していたことに、みんなが気付いてくれたのでしよう。だから明るく元気に声をかけてくれたのだと思います。私は感謝の気持ちでいっばいになりました。この気持ちを忘